

SDGs(持続可能な開発目標)は、今やグローバルな課題として政府、自治体、企業、市民それぞれの立場で考え行動することが求められており、広い視野と好奇心が必要です。横浜国立大学は、ここ常盤台キャンパスに、教育学部、経済学部、経営学部、理工学部、都市科学部があり、文と理を含めた広い分野の研究と教育を行っています。YY講座では、この特徴を活かして、SDGsと私たちの生活との関連について各専門の教員が分かり易く講義するとともに、身近に「自分ごと」として捉えられるよう内容を工夫しました。

今年も引き続き、社会への貢献を重視する読売新聞横浜支局との共催とさせていただきます。SDGs達成に向けて、新しく刺激的な「知」を皆様へお届けします。



横浜国立大学長
長谷部 勇一



読売新聞横浜支局長
横田 博行

1972年、国際民間組織ローマ・クラブが「成長の限界」と題する研究報告書を発表し、大きな反響を呼びました。それは「成長一辺倒の世界はやがて破局を迎える」という警告で、科学技術の進歩、経済発展の中で勢いづく人類に、いわば冷水を浴びせるものでした。背景には爆発的な人口増加、資源の枯渇、環境汚染などへの懸念の高まりがありました。それらの諸問題は近年、深刻さの度合いを増しているように見えます。いま注目のSDGs(持続可能な開発目標)は、まさに破局回避への一つの道筋ではないかと思えます。今回のYY講座は、そんな地球規模の課題に、ごく身近な事柄からアプローチしていきます。興味深い講座が目白押しです。ぜひご参加ください。

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

YNUコミュニティカレッジ



YOMIURI ⊗ YNU

私たちの生活とSDGs (持続可能な開発目標)



参加費は無料です。たくさんの方の受講をお待ちしております。

- 開催日時 7月26日(金)・8月9日(金)・8月23日(金) 16:30~18:30(受付開始 16:00~)
- 会場 7月26日(金) 中央図書館メディアホール
8月9日(金)・8月23日(金) 経営学部講義棟2号館 109教室
- 受講対象 高校生(高校生以外の方もお申込み可)
- 受講定員 150名
- 受付期間 2019年5月7日(火)~8月15日(木) ※先着順、定員に達し次第受付を終了いたします。
- 申込方法 本ウェブサイトからお申込下さい。

スマート
フォンからの
申込はこちら



「横浜国立大学トップページ」→「産学・地域連携」→「生涯学習」→「公開講座のご案内」→「私たちの生活とSDGs」
https://www.ynu.ac.jp/society/lifelong/public_lecture/index.php
その他、FAX・郵送にてお申し込みができます。(お電話でのお申し込みは受け付けておりません。)
下記項目を記載の上お申込ください。
お名前・フリガナ・E-mailアドレス(お持ちの場合)・性別・年齢・ご住所・電話番号・FAX番号・ご職業・次年度以降の本学公開講座案内の送付希望の有無
お申込をいただいた方には、ご案内を送付いたします。
※お知らせいただいた個人情報は、公開講座受講にあたって必要な連絡、今後の公開講座案内等の送付及び、今後の公開講座運営上の参考にするための統計資料作成以外には利用いたしません。

公開講座の動画配信中!
<https://www.youtube.com/watch?v=blyil4cXDHK>
※本講座も動画撮影予定です。



横浜国立大学常盤台キャンパスへの交通案内



- 横浜市営地下鉄線 ミツ沢上町駅下車→徒歩約16分で大学正門へ
- 相模鉄道線 和田町駅下車→徒歩約20分で大学南門・南通用門へ
- JR等 横浜駅下車→横浜駅西口より下記のバスに乗車→大学各門へ

【横浜駅西口からバス】
※キャンパス内へのバスの乗り入れは平日のみ。詳細はwww.ynu.ac.jp/access/index.html

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
①	202系統 循環外回り	横浜新道または岡沢町	南通用門・正門
⑭	201系統 循環内回り 急行329系統 横浜駅西口	国大中央または大学会館前 岡沢町または横浜新道	キャンパス内 ※平日のみ 正門・南通用門

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑩	浜10系統 横浜駅西口 系5系統 交通裁判所前	横浜駅西口 岡沢町	キャンパス内 ※平日のみ 正門

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑬	01系統 中山駅	岡沢町または横浜新道	正門・南通用門

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

研究・学術情報部
産学・地域連携課 地域連携係

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5
TEL:045-339-4455 FAX:045-339-3057
E-mail:sangaku.chiiki@ynu.ac.jp

2019-6-11-4000



主催：横浜国立大学公開講座委員会
共催：読売新聞横浜支局



私たちの生活とSDGs (持続可能な開発目標)

SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。それまでのMDGs(ミレニアム開発目標)との大きな違いは、先進国の役割が大きいことであり、日本では企業行動憲章にも盛り込まれました。17の目標は互いに関連し合っており、包括的な取り組みが重要です。「誰一人として取り残さない」社会の実現のために、私たちができることは何なのかについて、共に考えましょう。



- 対象: 高校生(高校生以外の方もお申込み可)
- 日時: 2019年7月26日(金)、8月9日(金)、8月23日(金) 各日16:30~18:30(受付16:00~)
- 場所: 2019年7月26日(金): 中央図書館メディアホール
2019年8月9日(金)・8月23日(金): 経営学部講義棟2号館109教室

第2回 8月9日(金)

16:30~17:30 「家から考える 持続可能なライフスタイル」



「エネルギー」は技術の話とっていませんか?でも、エネルギーを使う人、選ぶ人としての市民の一つひとつの選択が省エネルギー・低炭素社会の構築に繋がっていきます。一方で、開発途上国では「エネルギー」は、貧困削減や教育、ジェンダーなどとも直接関わりの大きい課題です。家電の普及が女性を解放してきた歴史などにも触れながら、自分の生活に身近な「家」を例に「持続可能なライフスタイル」を考えてみましょう。



早稲田大学 社会科学部 講師 (元横浜国立大学 男女共同参画推進センター 企画研究員) 大塚 彩美

17:30~18:30 「スマホと環境問題 -ライフサイクルの視点で生活を見直そう-」



地球温暖化やCO2排出削減などが世界中で問題になっています。私たちはこれらの問題にどう向き合えばいいのでしょうか?電気や水を大切に使う、エコバックを利用する、など、いろいろ「エコ」な「環境にやさしい」行動が紹介されていますが、それだけでいいのか疑問に思ったことはないでしょうか?そもそも「環境にやさしい」とは一体どういうことなのでしょうか?この講義では、スマホなどの身近な製品のライフサイクル(一生)を考えることを始点として、モノやエネルギーを大量に消費する私たちの毎日の生活と環境問題の結び付きについて一緒に考えたいと思います。



横浜国立大学 大学院 環境情報研究院 教授 松本 真哉

第1回 7月26日(金) (各回 講義50分+最後に総括5~10分)

「SDGsと私たちの生活との関わり」(本シリーズのねらい)

16:30~17:30 「すべてにつながるエシカル消費で世界を変える」

皆さんは何かを購入したり使ったりする際、どのようなことを気にしていますか?私たちの日々の何気ない消費活動は、地球環境問題や世界の格差問題などグローバルな課題につながっており、「持続可能な消費」の重要性についてはこれまで多くの国際会議で示されてきました。SDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」もその一つです。私たちの日々の消費活動で社会を良くするためのヒントとして、最近注目されているエシカル消費の考え方や動向について紹介します。



横浜国立大学 教育学部 教授 松葉口 玲子

17:30~18:30 「ジェンダー平等と横浜国大の取り組み」

ジェンダー平等とはどのような問題か、性暴力や貧困等、世界各国における様々な問題とそれに対する取り組みを概観するとともに、世界各国と比較した時の日本社会の現状を、ジェンダー平等に関する国際比較指標等に基づいて検討します。その上で、日本社会のジェンダー平等の実現のために必要な高等教育に着眼し、その一例として、本学の取組を紹介します。



横浜国立大学 大学院 都市イノベーション研究院 教授 男女共同参画推進センター 副センター長 江原 由美子

第3回 8月23日(金)

16:30~17:30 「環境・エネルギー問題とリスク共生」



人間活動を維持するためにはエネルギーを消費しなければなりません。しかしながら、エネルギーを消費することは資源枯渇や地球温暖化などの地球規模の環境問題や、ヒートアイランド現象や大気汚染などの地域(都市)規模の環境問題を引き起こします。また、東日本大震災に伴う原発事故によって、日本のエネルギー政策の根幹が揺らいでいます。この講義では、リスク共生の視点から、これからのエネルギーシステムの在り方について考えてみましょう。



横浜国立大学 大学院 環境情報研究院 教授 鳴海 大典

17:30~18:30 「君は台風列島で生き延びることができるか?」



高度な科学で精度良く天気予報が行われる現代においても、台風による甚大な被害は後を絶ちません。特に警戒が弱い地域にひとたび台風が襲来すれば、その被害は拡大しています。日本に住んでいる以上、台風はいつでも我々の身に振りかかってくる脅威の存在だと認識を変えて、日頃から防災・減災への意識と対策を取るべきです。本講演では、近年の台風の傾向とこれからの進化、さらに世界初の台風ハザードマップ開発など台風研究の裏側について紹介します。



横浜国立大学 教育学部 准教授 筆保 弘徳